

こんにちは！NAKAJIMA RACING で 2024 年シーズンの SUPER GT、SUPER FORMULA 65 号車のトラックエンジニアを担当している加藤 祐樹と申します。今回からこの場を借りて、不定期にエンジニア目線でモータースポーツを語っていきたいと思います。独断と偏見となりますが、どうぞよろしくお願いいたします！

初回という事で、今回は私の自己紹介をメインにお話していきます。

私はこの業界に入ったのが 2014 年でしたので、11 年目に入っています。F1 が大好きな父の影響で幼少期からモータースポーツが好きで、絵が好きな母の影響でクルマの絵を描き、学生時代を過ごしてきました。大学に入ってから自動車部、大学院時代に学生フォーミュラチームを発足し、それ以外にもレーシングカートのアマチュアシリーズや軽自動車耐久、Joy 耐にドライバーとして参戦しました。絵が好きだった事で自動車のエクステリアやレーシングカーの空力デザインに最も興味があり、当初はデザイナーを志していましたが、レーシングカーを含む自動車開発の事を知るにつれ、設計開発というプロジェクト全体に興味を持つようになりました。その結果、愛知県の自動車メーカーに就職。エンジニア目線の商品企画を図面ベースで行う部署で数年を過ごします。その中で、いずれ自分の武器が出来たらモータースポーツの世界に転向する気持ちを心に秘めていました。

そんな中、あるレーシングドライバーとエンジニアさんから声を掛けてもらい、悩んだ末にこの世界に飛び込んで下積みをする決意を固め、中嶋企画に入社したのです。少しタイミングが早かった気もしますが、社会人としてのベースを作った上で、目標としていたステージに飛び込んで下積みするという選択は間違っていなかったように思います。どんなに忙しくても充実した毎日を過ごしています。負けたら悔しいですが！

ここからは中嶋企画でのキャリアについて、お話していきます。

私が中嶋企画に声をかけて頂いたのは当時のドライバー、エンジニア両名からの要望がバックグラウンドにありました。それは今で言うパフォーマンスエンジニア（マシンのデータを見ながらマシンが速くなるためのセットアップをトラックエンジニアに提案する役目）を入れて強化したい、というものでした。当時は(少なくとも NAKAJIMA RACING は)まだドライバーとエンジニアだけの考えでセットアップを進めており、分析解析をメインでサポートする部隊がありませんでした。私は自分の力でどこまでサ

ポートできるか半信半疑でした。まずは自動車メーカーで学んだ日々の仕事の仕方、報連相、資料を作り説明しその資料を蓄積する、という自分の武器を活かして業務を始めました。入社した2014年に一例として、SUPER GTにて富士スピードウェイの100Rのアンダーステアが修正できず困っていた時、ダンロップさんとタイヤ特性について議論をし、タイヤが使われている環境からアンダーステア要因と対策を検討し、車両セットアップとタイヤ構造を見直してもらう事で問題を解消できたという経験がありました。これが自分の仕事に僅かでも自信を持つ機会となりました。

その後、2017年夏からSUPER FORMULAのトラックエンジニア（マシンの方向性を決める責任者。ドライバーの意見やマシンのデータ、気象条件などからセットアップを決める。また、メカニックにセット変更の指示も出す）に昇格し、2020年からはSUPER GTもトラックエンジニアを担当するようになります。上記の入社当初の経験をバックグラウンドに、あくまでデータ分析、解析を用いて定量的に課題の抽出と対策を考え、階段状に成長していくスタイルで後進を育成しながら、今もエンジニア業務を担当しています。

自分の事ばかり書いてしまいましたが、今回はこれくらいにしておきましょう。このコラムで中嶋企画の事、モータースポーツの魅力を発信し、読者の皆様に少しでも醍醐味を知ってもらえれば嬉しいです。

ご覧いただきありがとうございました。今後も気ままに更新していきますので、よろしくお祈いします！

加藤 祐樹

1986年12月3日生まれ／埼玉県出身

大学院を卒業後、トヨタ自動車を経て、2014年に中嶋企画に入社。

データエンジニアとしてレーシングカーへの知識と経験を積み、2017年途中からSUPER FORMULAでトラックエンジニアデビュー。SUPER GTでは、2020年からトラックエンジニアを担当している。